

鵜戸

UDO JINGU

令和5年はうさぎ年

鵜戸神宮の神様のお使いはうさぎです

鵜戸へようこそ！

奉祝イベント

春の縁日大祭 (3/25)、秋の縁日大祭 (11/3)

奉祝コンサート、文化講座、書道展など



「一本杉」の命脈

95

vol.

紀元 2683年

令和5年 1.1

column

コラム 海幸山幸 6

楼門の絵馬



絵馬制作の様子



明年の迎春支度をととのへる鵜戸神宮の年末風物詩として、十二月二十七日に行はれる「亀石」の注連縄張替へと、楼門に掲げられた干支絵馬の掛け替へ行事があります。

とりわけ後者は、小職にとつても一大事です。

といふのも、大絵馬に添へる文字を宮司が揮毫する慣はしとなつてゐるからです。毎年テレビや新聞などの取材も受けてゐます。悪筆はご容赦いただくとしても、映された文字を見るたびに、文言の意図するところや願ひが参拝者に届くであらうか、また世相を反映したものになつてゐるのかと、少しく不安を覚えま

す。絵ほどには目立ちませ

んし、楼門をくぐり参拝される方々は余り意識することもないと思ひますが、年間百万人ほどがこの門を行き交ふのです。

因みに、小職が初めて当神宮での正月を迎へた令和二年は、『日本書紀』の神武紀より「積慶重暉」といふ文言にしました。この年が『日本書紀』撰上一三〇〇年の節目の年であつたからです。国民一人ひとりが暉(善行)を重ね慶び(幸福)を積むことが、「世界平和と国民平安」へとつながるといつた意味です。

同三年は、改めて説明するまでもありませんが「悪疫退散」で、同四年が「一陽来復」でした。漸くにして新型コロナウイルス収束の兆しも期待させる世相から、寅年に因んで力強い社会生活の前進を祈念し揮毫しました。

とところで、この楼門に絵馬を掲げるやうになつたのは何時からでせうか。

当初から干支を描き続けてゐる当神宮宮繕課長の淵田賢二権禰宜に尋ねたところ、「平成十一年からです」といふ明確な答へが返つてきました。干支は「卯」で、すなはち鵜戸神宮の神の使ひとされてゐる「兎」から始まつたところに即答の理由がありました。といふことは令和五年の卯年は、三巡目に入る予定となります。そこで区切りよく趣向を変へることを決断しました。今年より日南高校の生徒さんに絵馬の図案を依頼して、楼門の表裏に掲げることにしたのです。次世代を担ふ若者による素朴で大胆な構図の絵馬が完成しました。

是非お参りの際にはご覧下さい。

(宮司・黒岩昭彦)



「一本杉」の命脈

鶴戸神宮宮司 黒岩 昭彦

昨

年九月に九州一帯を縦断した台風十四号は、鹿児島県への上陸時に九三五ヘクトパスカルといふ強大なものでした。これは昭和二十六年の統計開始以来四番目の大きさで、線状降水帯が発生し、大雨特別警報が発令されるなど宮崎県も甚大な被害が出ました。風雨を受け、鶴戸神宮楼門の銅板剥落など多数の損傷被害となつてしまひました（十頁参照）。

ところで、当神宮の台風被害として忘れてならないのは、平成二年九月十八日夜から十九日午前にかけて襲来した台風十九号でせう。県内を暴風域に巻き込みながら北上、「宮崎日日新聞」は、「約三十年ぶりの強力台風」と報じました。それでも、

県の東側を通過したことで被害は最小限に押さへられたといひます。日南市油津では最大瞬間風速四十一・九メートルを記録し、また星倉では河川が決壊し、腰の高さまで浸水しました。

当時の社務日誌を紐解くと、「①天然記念物鶴戸の杉（一本杉）が倒れた。②新駐車場参道の横の杉四本倒れた。③八丁坂外山商店上杉左側三本右側四本倒れた。④別当墓地下杉八本倒れた。⑤神宮駐車場海岸側が崩れた。⑥第三授与所の玉橋側銅板屋根がはがれた。⑦第三社宅の板塀が倒れた」と報告されてゐます。甚大な被害であり非常に残念ですが、自然災害ゆゑに、なすすべもありません。

こ

のなかで特筆すべきは、①の「一本杉」の倒木でせう。

「一本杉」は、現在の第二駐車場から八丁坂に向かふ右奥の境内に生えてゐました。享保年間には、この近くに別当の「閑居処」が設けられたさうです。推定樹齢は八百年、高さ四十二・五メートル、幹回り六、七メートルもある大木で、まさに「一本杉」と称されるに相応しい立派なご神木だったので。昭和四十五年には日南市天然記念物の指定を受けてゐました。ただ、シロアリの侵蝕による空洞化が進んでゐたやうで、強風に耐へ切れず倒木したので。

ところで、「私は鶴戸山の三本杉よ！二本切られて今一本杉よ！……」といふ民謡が地元で唄ひ継がれてゐるやうに、かつて神域には「三本杉」と称されるご神木がありました。天空に聳へ、遠く海上からも眺望で

台

風襲来は鶴戸神宮にとつては大きな痛手となりました。

ただ、倒木保存の処置を直ぐに採つたことは幸ひでした。一本杉の根元から五メートルの部分は元の位置にそのままの形で残されたのです。現在では注連縄を張り紙垂を垂らし、風雨にさらされて腐食しないやうに屋根で覆はれてゐます。また、折れた幹の上部は枝打ちして、老杉の威容を後世に伝えるべく、至近の参道端に展示されてゐます。第二駐車場に駐車された方は、お参りに向かはれる際に二十メートルほどの大木が横たは

つてゐるのに気づくはずですよ。

そして社務所内には、三つ股に分かれた杉枝を台座に据ゑた「一本杉の枝」が飾られてゐます。高さ二メートルほどで、向かつて左奥の枝周りは四十センチ余りあり、中央やや上に注連縄と紙垂が垂らされてゐます。その枝の付け根の部分からもう一本の枝が正面に突き出してゐますが、こちらは五十センチほどの位置から無残にも折れたままのささくれ状態で、台風の影響を物語つてゐます。また右側からは、枝周りに三十センチほどの枝が真つ直ぐに伸びてゐますが、こちらは小振りで、高さも低く注連縄は張られてゐません。

か

つての「一本杉」の壮観な姿を再び拝することは叶ひません。

しかしながら、その生命を受け継いだ若杉の将来を見守ることは可能です。氏子の平下与平氏



「一本杉」 作画：鶴戸神宮権禰宜 瀧田賢二

が一本杉の枝を「挿木」に育ててくださったからです。挿木とは、茎、枝、根など植物の一部を切り取り、土等に挿して発根させ新株を作る方法です。平成五年一月には、そのうちの八本が、倒木した参道脇に植樹されました。爾来三十年、すくすくと成長し、今では鶴戸神宮の杜にしつかりと溶け込んでゐます。「一本杉」のやうなご神木となるまでには、これから数百年の試練に耐へねばならず、幾度もの風水害に見舞はれることとせう。我々は何十世代にも亘つて、その行く末に関心を寄せて行かねばなりません。

社報『鶴戸』（平成五年七月一日号）は、

私たちは、この挿木がすくすくと成長し、鶴戸の空にそびえる事を願いつつ、又、後世の宝となるよう見守つていきたい。

と、力強い言葉を記してゐます。

六月大祓

令和四年六月三十日、夏越の大祓式を斎行しました。この神事は、日常生活での心身の穢れや、災厄の原因となる諸々の罪や過ちを祓い清めるのが目的とされ、古来より執り行われてきました。

ここ数年、祭典当日に雨天が続いておりましたが、今年は快晴にも恵まれ、氏子・崇敬者にも参列を賜り、参列者全員で茅の輪ぐりの神事も行うことが出来ました。



茅の輪ぐりの様子

抜穂祭



集合写真

令和四年七月二十七日、抜穂祭をご神田にて斎行しました。

祭典当日は雨天でしたが、氏子総代をはじめ、鵜戸小学校児童、地区氏子にも参列いただきました。また今回は、JAはまゆうの職員が参加できなかった為、刈女の奉仕を鵜戸小学校女子児童に奉仕してもらいました。ご神田で獲れた稲穂は、当神宮新穀感謝祭と伊勢の神宮で斎行される神嘗祭に懸税として奉納しました。

新嘗祭

令和四年十一月二十三日、新嘗祭を斎行しました。

この祭典は大神様の御恵みによって得られた新穀の収穫に感謝するとともに、国家の繁栄を祈念するものです。

当日は晴天にも恵まれ、責任役員をはじめ多数の参列を賜りました。今年も県内の農業関係や漁協で収穫された新米、野菜や魚、酒造関係、菓子店で製造された焼酎や醤油、お菓子を奉納いただき、ご神前にお供えしました。また、鵜戸小学校児童十二名による、子供神楽が奏舞されました。ここ数年は、コロナ禍で行えなかったため、三年振りの奉納となり、祭典もより一層賑わうものとなりました。



新嘗祭 奉納各社

- 【酒造・醸造会社】
- 京屋酒造
- 霧島酒造
- 寿海酒造
- 神楽酒造
- やまや蒸留所
- 井上酒造
- 古澤醸造
- 小玉醸造
- 本坊酒造
- 櫻乃峰酒造
- 櫻の郷酒造
- 松の露酒造
- 竹井醸造
- 谷口醸造
- 松尾味噌醤油店

【菓子店】

- ゴローズ日南店
- 柵屋菓子店
- 松家
- 竹井菓子店
- 安藤明月堂
- サンキュー堂
- 金城堂本店
- とらや菓子店
- 【新米】
- 平山宮農支部
- 甲東宮農支部
- 乙東宮農支部
- 殿所宮農支部
- 松永宮農支部
- 益安宮農支部
- 内之田自治会
- 【野菜・魚】
- JAはまゆう
- 日南市漁協組合



奉納奉告祭

鵜戸神楽装束、金幣奉納奉告祭

令和四年七月十九日、鵜戸神楽面、鵜戸神楽装束、金幣の奉納奉告祭を斎行し、祭典後には宮司より感謝状が贈呈されました。

鵜戸神楽面は延岡市在住の面打師弓削孝氏より、鵜戸神楽装束一式と金幣は、株式会社ニチワ代表取締役社長橋本佳隆氏より奉納いただきました。

その経緯は、橋本氏より、自社が六十周年を迎えるにあたり、その記念事業の一環として、当神宮に奉納したいとの申し出があったことによりです。また、それに伴い、鵜戸神楽面も必要となったため、作製を弓削氏へ依頼することとなりました。弓削氏には、過去にも納曾利面や蘭陵王面も奉納いただいております。

なお、鵜戸神楽の復活を目指し、現在も当神宮職員四名が西都



弓削様ご夫妻、(株)ニチワ 橋本佳隆様 他3名参拝

市銀鏡神社へ赴き、毎月一回銀鏡神楽保存会と合同で神楽の稽古を行っていただきます。神楽を習得した暁には、ご奉納いただいた品々を大切に使用させていただきます。



(金幣)



(鵜戸神楽鬼神面)



(鵜戸神楽鬼神面)



(鵜戸鬼神袴)



(鵜戸鬼神羽織)

兎の像奉納奉告祭



兎の像奉納 内野々様ご家族

令和四年七月十日に、鹿児島県在住の内野々清一様より、兎の像奉納がありました。宮司をはじめ、内野々様ご家族参列の下、厳肅に奉納奉告祭を斎行しました。

祭典後には、奉納された兎の像を祓い清め、ご家族で集合写真撮影されました。





松葉景正（まつば かげまさ）
 劍の術理を活かした武道家としても名高く、国内だけでなく、海外でも活躍。和太鼓や剣術の演武、講演、セミナーなどを精力的に行っている。

【略歴】
 昭和34年 宮崎県日向市生まれ
 全 58年 小林康宏刀匠に入門
 平成元年 刀匠資格取得
 令和4年 県指定無形民俗文化財（日本刀制作技術）
 全 4年 「國正」から「景正」に改名

【受賞歴】
 平成19年 日向市文化賞
 全 20年 宮崎県文化賞
 全 23年、全26年 新作名刀展
 日本美術刀剣保存協会会長賞受賞

入場無料

●日冊國正作

宮崎県無形文化財指定刀匠

松葉景正刀剣展

会期 令和五年八月五日（土）～八月二十日（日）
 九時～十六時
 会場 鵜戸神宮儀式殿
 主催 鵜戸神宮

◎期間中に、講演会と演武を予定しております。



寺原聖山（てらはらせいざん）
 【略歴】
 昭和26年 宮崎県西都市生まれ
 全 46年 日展初入選
 全 49年 二松學舎大學文学部中国哲学科卒業
 全 51年 早稲田大学文学部中国哲学科終了
 全 62年 読売書法展 特別受賞
 平成19年 読売書法会 理事就任

【個展】
 平成4年 第2回個展「不惑展」神奈川県 海蔵寺
 全 10年 宮崎にて「聖山・故郷書作展」宮日会館
 全 25年 第4回個展「耳順展」神奈川県 海蔵寺
 全 26年 「寺原聖山書の世界展」東京都八重洲ブックセンター
 全 31年 「書業60年記念 寺原聖山書の世界展」高鍋町立美術館
 令和4年 第5回個展「従心展」神奈川県 海蔵寺

入場無料



神々に捧ぐ書

寺原聖山個展

会期 令和五年
 四月二十四日（月）～五月十四日（日）九時～十六時
 会場 鵜戸神宮儀式殿
 主催 鵜戸神宮
 協力 英彦山神宮 霧島神宮 鹿兒島神宮 宮崎神宮
 都農神社 天岩戸神社 江田神社 大御神社
 講演会 令和五年五月十三日（土）十七時～於宮崎観光ホテル

令和5年 厄年年表

厄年は人生の転機にあたり、心身共に苦勞の多い年齢と言われています。
年の始めに厄祓を受けられまして、本年も無病息災にてお過ごしくださいますようお願い申し上げます。

女性 厄年			厄入	男性 厄年		
1993年/平成5年生 (31歳) とり				1984年/昭和59年生 (40歳) ねずみ		
2006年/平成18年生 (18歳) いぬ	1992年/平成4年生 (32歳) さる	1988年/昭和63年生 (36歳) たつ	2000年/平成12年生 (24歳) たつ	1983年/昭和58年生 (41歳) いのしし	1964年/昭和39年生 (60歳) たつ	
2005年/平成17年生 (19歳) とり	1991年/平成3年生 (33歳) ひっじ	1987年/昭和62年生 (37歳) うさぎ	1999年/平成11年生 (25歳) うさぎ	1982年/昭和57年生 (42歳) いぬ	1963年/昭和38年生 (61歳) うさぎ	
2004年/平成16年生 (20歳) さる	1990年/平成2年生 (34歳) うま	1986年/昭和61年生 (38歳) とら	1998年/平成10年生 (26歳) とら	1981年/昭和56年生 (43歳) とり	1962年/昭和37年生 (62歳) とら	
	1989年/ 平成元年/昭和64年生 (35歳) へび			1980年/昭和55年生 (44歳) さる		

※()内の年齢は数え年での年齢です
※「厄入」「厄明」の年は、日南市の風習によるものです

令和5年 卯卯の日 ご縁日カレンダー

- 1月 9日(月)、15日(日)、21日(土)
- 2月 2日(木)、14日(火)、26日(日)
- 3月 10日(金)、19日(日)、22日(水)
- 4月 3日(月)、15日(土)、27日(木)
- 5月 9日(火)、21日(日)、27日(土)
- 6月 2日(金)、14日(水)、26日(月)
- 7月 8日(土)、20日(木)、23日(日)
- 8月 1日(火)、13日(日)、25日(金)
- 9月 6日(水)、18日(月)、30日(土)
- 10月 12日(木)、24日(火)、29日(日)
- 11月 5日(日)、17日(金)、29日(水)
- 12月 11日(月)、23日(土)、31日(日)

令和5年のご縁のある「卯の日」をご案内します。1月から12月までの上記の日にお参りいただいた方には右の「スタンプカード」に押印します。
スタンプがたまりましたら、記念品を進呈(12月)いたしますので、ぜひご参拝下さい。なお、記念品は毎月1度以上お参りした方に差し上げます。
※卯の日が2度しかない月は、「幸日」を設定しています。



スタンプカードは令和4年12月下旬より配布しております。ご希望の方はお参りの際にお申し出ください。

※画像はイメージです

お守り紹介

令和五年は卯年です。当神宮御祭神のご神使は古くより「うさぎ」であると言われています。そこで、今回は、うさぎのお守りを多数ご用意しておりますので、どうぞお受け下さい。



今回、新たにうさぎが刺繍されているものを新調しました。

幸の玉お守り



御初穂料 八〇〇円

千支福お守り



心地よい鈴の音が運を呼び込みます。

御初穂料 一〇〇〇円

うさぎ水琴鈴御守



御初穂料 二〇〇〇円 (記帳代込み)

朱印帳に新たなデザインを追加しました。

朱印帳(卯)



お願いごとなどを書き、神社に奉納ください。

御初穂料 五〇〇円

うさぎ絵馬 縁日絵馬



御初穂料 一五〇〇円

千支張子



御初穂料 小 八〇〇円 大 一五〇〇円

招福うさぎ

お守り・お札の郵送について

当神宮では、参拝が難しい方や遠方の方でもお守りを受けられるよう郵送も行っております。ご希望の場合は社務所までご連絡ください。

台風十四号被害

令和四年九月十七日夜から十八日夕刻にかけて最接近した台風十四号により県内各地は大きな被害を受けました。

市内各地では、強風による倒木や道路標識、店舗看板の破損、警戒レベル5相当（特別大雨警報）が発表され、河川（広渡川・酒谷川）の氾濫危険水位に到達し、氾濫のおそれもありました。また、十八日朝から二十一日午後九時頃に亘り停電しました。幸いにも鶴戸地区や国

道二二〇号での土砂崩れや人的被害はなく、翌日十九日には、通常通り参拝者を迎えました。

当神宮では、楼門や各所屋根の銅板の損傷、本殿、御陵、波切神社へ続く参道での倒木、特に楼門屋根銅板、鳥居の銅板の損傷が酷く、剥がれた銅板が境内に散乱しました。

楼門は令和四年内に復旧が完了しましたが、その他被害箇所は現在も復旧作業中です。参拝される方々にはご不便をお



楼門被害

かけいたしますが、安心してお参りいただけるよう、各所の復旧作業を行っていきたくと思います。なお、これに併せ、皆様方の心温まるご協賛をいただきましたので、紙面を通して厚く御礼申し上げます。

台風被害銅板協賛者

- | | |
|-----------|-------|
| 小池愛子 | 中川久美子 |
| 栗原寿美江 | 斉藤貢一 |
| 福岡泰製 | 大木高志 |
| 瀧谷直文 | 高木睦枝 |
| 瀧谷清子 | 池田いく子 |
| 新谷庄司 | 川崎由美子 |
| 牛島信 | 西村英晃 |
| 牛島あん路 | 竹井一真 |
| 清水いみ子 | 内村博之 |
| 柳彩夏 | 小倉敬孝 |
| 山下裕美 | 加藤雅彦 |
| 小澤恵利華 | 鈴木美奈子 |
| 轟泰輝 | 秋山秀明 |
| 成瀬誠華 | 岡本知子 |
| 梅野紀美香 | 林智子 |
| 池田尚弘 | 宮崎信一郎 |
| 廣瀬成一朗 | 石原一哉 |
| 山本忠則 | 西村巖童 |
| 行橋玄洋社 | 甲斐淳男 |
| 代表取締役 原俊行 | 徳重雄一 |
| 石掛俊博 | 泉理恵 |
| 工藤一美 | 清水正信 |
| 山下千秋 | 稲田和朝 |
| 大橋友里子 | 菅原和音 |
| 関根光 | 種田靖夫 |
| 坂友正行 | 甲斐憲一 |
| 中西克守 | 佐藤早希子 |
| 小野原知佳 | 野村大也 |
| 土井宏雅 | 上田玲央斗 |
| 上田華 | 今津純子 |
| 花田修治 | 上津照代 |
| 藤巻圭 | 橋澤直美 |
| 岩本愛加 | 中山雅子 |
| 浜辺秀典 | 前田紀 |
| 別府香織 | 加藤久和 |
| 八木陽子 | 船木裕人 |
| 岩松伸治 | 田頭亜希子 |
| 富永悠大 | 三宅真由美 |
| 富永るみ子 | 泉加津子 |
| 松橋昇 | 泉裕之 |
| 萩原一男 | 吉本享来 |
| 萩原信子 | 吉村崇志 |
| 中谷繁克 | 河野久子 |
| 嶋田美枝 | 山下真紀 |
| 中野基晴 | 佐藤真伸 |
| 小川芳郎 | 黒不美衣 |
| 小川光博 | 羽柴小百合 |
| 川名祐太郎 | 野村綾 |
| 西村有利子 | |

令和四年十一月三十日現在



本殿参道倒木



参道木製燈籠破損



ご陵倒木

令和4年 社務日誌抄

- 1月1日 零時 疫病収束祈願奉納花火打上げ
- 1月1日 歳旦祭・疫病収束祈願祭
- 1月2日 初日供祭
- 1月3日 元始祭
- 1月4日 兎の像奉納奉告祭 堂地様
- 1月7日 昭和天皇御陵遙拝式
- 1月10日 成人祭・恵比須神社例祭
- 1月16日 古神符焼納祭
- 1月28日 波切神社例祭
- 1月31日 例祭前夜祭
- 2月1日 例祭
- 2月2日 吾平山上御陵祭
- 2月3日 節分祭
- 2月3日 鹿児島マクロ船主協会 海幸祭
- 2月10日 鶴戸稲荷神社例祭
- 2月10日 鶴戸神宮文化講演会 講師久野潤氏
- 2月11日 広島東洋カープ 必勝祈願
- 2月11日 紀元祭
- 2月16日 播種祭
- 2月17日 祈年祭
- 2月23日 天長祭
- 3月8日 御神田清祓祭
- 3月20日 春季皇霊祭遙拝式・春分祭
- 3月23日 御田植祭
- 3月26日 春の緑日大祭・誕生感謝奉告祭
- 4月3日 神武天皇御陵遙拝式
- 4月19日 鶴戸神宮敬神婦人会総会
- 4月29日 昭和祭

毎月1日 月次祭 毎月「卯」の日は縁日祭・誕生感謝奉告

- 4月30日 自動車被所鎮座記念祭
- 5月4日 上皇皇后両陛下御参拝記念祭
- 5月5日 神御衣祭・節句祭
- 5月16日 別当宮司先賢慰霊祭
- 5月23日 宮崎神宮敬神婦人会
- 5月24日 百野会長他四名参拝 (株)こく 横山正氏より
- 5月24日 ジャカランダ奉納
- 6月30日 住吉神社例祭・九柱神社例祭・大祓式
- 7月1日 運玉初穂料改定「五個二億円」
- 7月5日 伊弉諾神宮宮司本名孝至氏 正式参拝
- 7月8日 鶴戸神宮防災の日・消火訓練
- 7月10日 内野々清一氏 兎の像奉納
- 7月12日 宮崎県神道青年会 正式参拝
- 7月16日 クルーズ船「飛鳥II」油津港に寄港
- 7月19日 神楽面・金幣・鶴戸神楽装束奉納奉告祭
- 7月20日 面打師 弓削孝氏
- 7月20日 株式会社ニチワ橋本佳隆氏
- 7月20日 クルーズ船「パシフィックピナス」
- 7月20日 油津港に寄港
- 7月23日 奈良県橿原市亀田市長 参拝
- 7月27日 抜穂祭
- 7月29日 尼様慰霊祭
- 8月1日 月次祭・新穀感謝祭
- 8月11日 長崎県護国神社宮司村田仁氏参拝
- 8月12日 特別崇敬者 小濱様ご家族参拝
- 8月29日 TBS報道番組「ザ・タイム」
- 8月29日 生中継で放映

- 8月30日 伊勢エビ大漁祈願祭
- 9月7日 鶴戸小中学校生徒職場体験で来宮
- 9月13日 実穂講 久保文子様三名参拝
- 9月17日 天皇皇后両陛下下英吉利
- 9月18日 御渡航行幸啓安泰祈願祭
- 9月19日 台風十四号による被害発生(銅板損傷など)
- 9月21日 敬老祭
- 9月23日 小戸神社 宮司申間祥亮氏他三名参拝
- 9月23日 秋季皇霊祭遙拝式・秋分祭
- 9月23日 天皇皇后両陛下下英吉利
- 9月23日 御渡航行幸啓安泰祈願祭
- 10月4日 皇子神社例祭
- 10月9日 崇敬者 小池愛子様他三名 正式参拝
- 10月13日 竈山神社遙拝式
- 10月15日 星裕美氏 舞コンテンポラーダンス奉納
- 10月17日 神嘗祭遙拝式・神嘗奉祝祭
- 10月23日 伏見記念財団 当主伏見博明氏参拝
- 10月27日 福智神社例祭
- 10月28日 寺原聖山氏 個展作品揮毫
- 10月29日 ウクライナ避難民十名参拝
- 11月3日 明治祭、秋の緑日大祭、誕生感謝奉告祭
- 11月5日 ウクライナ避難民七名
- 11月6日 平和祈願祭の為来宮
- 11月7日 平成遷座記念祭
- 11月7日 神御衣祭
- 11月12日 参議院議員 松下新平氏他二名参拝
- 11月15日 七五三祭
- 11月17日 儀式殿鎮座記念祭
- 11月23日 新嘗祭
- 11月24日 水神祭
- 12月3日 火産霊神社例祭
- 12月15日 門守祭
- 12月27日 煤払祭・亀石注連縄張替え・絵馬掛け替え
- 12月31日 大祓式・除夜祭